

佐波地域 庁舎建設に関する検討会

【日時】 平成29年4月27日（木） 午後6時～7時30分

【場所】 佐波公民館 集会室

【出席者】 佐波地域住民ほか 計71名

【市説明者】 松浦市長、村田副市長、末吉総務部長、石丸庁舎建設室長、竹末庁舎建設室次長、工棟庁舎建設室建設推進係長

【配付資料】 「防府市新庁舎建設について～庁舎建設に係るこれまでの経緯等～」

- 【概要】
- 1) 市長あいさつ（松浦市長）
 - 2) 庁舎建設に係るこれまでの経緯等（石丸室長）
 - ・候補地選定の経緯を中心に説明
 - 3) 質疑応答

【質疑応答の概要】 *各発言は、要旨を簡略化して記載している。

◆質問者1

1月28日のシンポジウムにも行き、なぜ現有地の案がないのか不思議に思った。今日も説明はない。駅北ありきで進んでいる。

防災面が不安なので、なるべく早く作って欲しい。現在地なら警察、県の土木事務所など近く連携しやすい。駅北のアスピラートやルルサスなど、稼働率もそれほどないようで、さらに市役所を作っても期待できない。

ルルサスの図書館も専用の駐車場のない図書館なんて全国どこに行ってもここだけじゃないか、物笑いの種。またそんな感じのものが建つのではないか、箱物が建つたびにがっかりする。市民の財産である市庁舎は、市民の望む方向で考えて欲しい。

◆質問者2

道路の問題はどうか。費用などは出ているか。

●庁舎建設室長

駅北ありきだという意見は各地でお受けしているが、回って説明して、わかっていたいてきているかなあというところ。

早くということについては、耐震性からスタートしたので、なるべく早く考えたい。

警察や消防などとの防災の連携にはいろいろなやり方がある。近ければ安心ということはあるが通信技術などさまざまな方法で確保していくよう考えていきたい。

アスピラートやルルサスについては、今が良い状態とは思っていないので、しっかりと考えていきたい。市役所をプラスしたらどうなるかわからないが、知恵を使って発展を目指していきたい。

図書館の専用駐車場がないということは、担当課にも伝え、これからも使っていく施設なので少しでも改善できるようにしたい。

ハードの整備で欠けているのが生活者の行動パターンなどの十分な検証。今後はそう

いうことにも気を付けていきたい。市民の望む方向で考えるのは当然だと思うので、この会でのご意見なども反映するようにしていきたい。

道路の費用については、資料の4ページ目の想定事業費のところ。付帯工事費の欄の数字に入っている。道路の問題は、渋滞や駐車場について各地で意見をいただいている。現在の交通量調査を見ると渋滞を惹起することはないと思っているが、入口を工夫したり、場内での動線を長く取るとか、設計上で必ず考えていかなければならない。

◆質問者3

市役所に来る人の8割から9割は車で来る。新しいところでは、駐車場の確保も難しい状況の中、先日の議会での全会一致の決議に従って、現庁舎での建替えも含めて、しっかりよく考えてもらいたい。

◆質問者4

訴える力が弱いのは、中長期的な事業計画が市民の皆さんにはよくわからないということ。どういう理由で駅北を選ぶのか、現庁舎を選ぶのか。そういうことがはっきりわからないとこの話は進まないし、結論が出ない。

◆質問者5

どういう都市計画、周辺開発やまちづくりをどうするか具体的なものが見えない。

今日の資料の総評のところだが、防府市そのものがコンパクトシティを形成していると思っており、位置の変更はそれほどの要因にはならない。利用のしやすさで言うと、公共交通機関が利用しやすいことはプラスだが、県や国の出先との関係でいうと、経験上、行ったり来たりすることがたまにあるので、近いというは無視できない。

18,000㎡の同じ建物を現在地に建替えるのが今日の資料の現在地のところのベースになっている建築内容ということになるか。また、現在地での建替えなら駐車場は更に広いスペースを確保できるのではないか。

●庁舎建設室長

3月27日の議会の決議については、しっかり対応をしていき、市民の皆さんにお示ししたい。

駐車場は立体と平面の組合せで180台整備し、現在146台なので若干増やしている。八王子1丁目の場合は、周辺に民間の駐車場もあるので、考え方を整理する必要がある。ピーク時で想定するのか、平常時で想定するのかでも変わってくる。

今回作ったのは庁舎の建設計画なので、中長期的なまちづくり計画は、別の計画で作っていかなければならない。今、更新をしている都市計画マスタープランが終わり次第、中心市街地の計画などで具体性を帯びさせていく。今年の施政方針にもあったが、これをきっかけに中心市街地の活性化や公共交通ネットワークの整備に取り組んでいく。

面的整備については、割と広めに八王子1丁目の街区全体位をとらえて地区計画などがないか。最近では都市計画決定を経ずに行える区画整理事業なども出てきている。

コンパクトシティの形成については色々と考え方はあるが、少子高齢化の中で持続可能な地域でなければ、いつかは疲弊するという危機感をもって話をさせていただいている。利便性については、マイナンバーなども含め、今後、IT化も進んでくるので、そのあたりを踏まえて考えたい。

建築費用については、資料の2ページ目の数字は1年半くらい前のものであり、現在では10億円位上がっている。

◆質問者6

先ほど33億円の貯金があると話があった。建設費が108億円なら、別に75億円お金が要る。その75億はどのような計画で償還するか。

●庁舎建設室長

資料の説明をしていない部分。資料の一番裏のページをご覧いただきたい。そこに財源の内訳を載せている。なるべく借金は抑える方向で考える。

◆質問者6

償還は計画どおりにできるのか。単に耐震性がないからということだけではなく、子供も減ってくる、マイナンバーなどで職員の仕事も軽減される中で職員の合理化など行政改革との兼ね合いも考え、市役所の努力も訴えていかないと納得されないのではないのか。新しい庁舎になればITの機械などが使えて経費が節減になるとか、具体的なメリットがある、効率化になるということも提示していくべき。

◆質問者7

今まで話を聞いていて、なんとなくすっきりしない。市庁舎の耐震が必要なのはわかる。どこへ建てるか今まで色々と考えてこられたということもよくわかった。ただ、駅北というのと現庁舎という話が出ていて、現庁舎に建てたときに具体的にどうなるのかよくわからない。それがわかれば比較して考えられる。議会の決議を受けて、具体的にどのように対応するのか。

●庁舎建設室長

行政の効率化、経費の節減など、新しい庁舎のメリットについては、今後、なるべく早い段階で提示できたらと思っている。

議会の決議への対応については、16地区を回っているいろんな意見を伺っているところ。対応はまだ決まっていないが、副市長を委員長とする庁内の検討委員会で検討には着手しており、早めの対応を考えたい。

◆質問者8

高架化をした成果やできなかったことの総括をどういう風にされているか。どうして今さら市役所をあそこにもっていくことになったか、当初からその発想はなかったのか。

積立を早くからしていることは先見性があるが、当初はどのように考えて、どのようにしようとしていたか、そのあたりを伺いたい。

●市長

市長に就任した頃は市財政は破綻寸前であった。その中で行政改革に取り組み、様々な行政課題をこなしつつ、鉄道高架事業、区画整理事業などを行ってきた。平成13年行革の間に市職員は230人位減少したが、今日のゆるぎない財政基盤を確立できた。

積み立てる前にどこかに決めておくべきだという考えもあろうが、いつかはどこかに作らなければならないという考えの中で積み立ててきた。先人が努力をされ、鉄道高架事業を成し遂げ、南北の区画整理事業、再開発事業をやってきた。その評価を色々と言われる向きはあり、決して十分な効果が上がっていると思っではないが、まちづくりは永遠の課題、今に生きる私たちが後世に示していくことが大事。

検討委員会でいただいた判断を基に粗々のイメージを作り、行政体として市内全域を歩かせていただいております、次なる方法として、老人クラブ、青年団体、障害者の方々の団体等々にも説明をして意見を承ってまいらねばならないのではないかと考えている。

今後も行財政改革を断行しつつ、健全な財政を維持しながら、世紀の大事業をやり遂げていかななくてはならない。私個人は、ちっとも焦っていない、急いでいない。色々な意味で今後に憂いのないように、後世のご批判に耐えられるようにしなければならない。

議会の決議については、突然の決議でびっくりした。色々な解釈があろうが、全員の方が納得された決議である。今日の資料の4ページにあるような程度のものであれば、そうそう時間はかからないだろう。それではだめとなれば、同じように時間をかけて、議会の意向を踏まえた同じレベルの比較対照できるものを用意して説明し、時機を見て無作為抽出のアンケートを実施するという事も考えられる。どちらにしても予算は必要。いずれにしても時間のかかることに、今、着手したばかり。

雑ばくな説明ですっきりしない、よくわからない、中長期的な見通しが甘いと言われるご指摘もいただいたが、ここまでお示しできるところまで来たということ。子供たちの意見も含めて聴くべきだというお話も先だっもらった。そこまではなかなか現実問題として難しいが、おおよそ500億円を駅周辺に投じてきた先人のご判断の中で今のまちがあり、そういう積み重ねの中で現在があり、未来もできてくるのではないかと。

500億かけてできた世紀の大事業、昔のままの姿をちょっと想像していただくと、今では隔世の感がある。先人のご苦勞の中で現有地が決められ、後世のものごころを慮りながら考えていくことが現世に生きるものごころの責任の一つかも知れない。

出前授業については、教育委員会とも相談してみないといけないが、常に頭の中に入れておきたい。

何度も言うが、決めたわけでは全くない。今、こういう状況にあるということをご報告しつつ、ご意見を賜っているということをご理解をいただきたい。